

教育プログラム・コースの概要

| | | | | | | | |
|-------------------------|---|-------|-------|-------|-------|-------|---|
| 大学名等 | 東京医科歯科大学大学院 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース名 | 小児がん・希少がん医療者養成コース | | | | | | |
| 対象者 | 医歯学総合研究科大学院生、保健衛生学研究科大学院生（大学院） | | | | | | |
| 修業年限（期間） | 4年 | | | | | | |
| 養成すべき人材像 | <p>①小児がんの診断・治療に携わり、学内外のネットワークの活用によって、小児がん診療の発展に寄与できる医療者（小児科、小児外科等）・人材</p> <p>②希少がんの診断・治療に携わり、学内外のネットワークの活用によって、希少がん診療の発展に寄与できる医療者（腫瘍整形外科、頭頸部外科、口腔外科、放射線治療科、食道外科、腫瘍内科等）・人材</p> <p>③上記①あるいは②に加えて、基礎研究者との連携が可能である医療者・人材</p> | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 各自の専門領域必修科目および下記の追加必修項目を含めて、30単位以上を履修し、学位論文を提出の上、審査、最終試験に合格すること | | | | | | |
| 履修科目等 | <p><必修科目> 所属分野の必修18単位に加えて、本プランの臨床腫瘍学、がん薬物療法の2単位+実習1単位</p> <p><選択科目> 所属分野以外の6単位に加えて、本プランの臓器別がん治療、放射線基礎、緩和基礎、総合演習から3単位</p> | | | | | | |
| 教育内容の特色等（新規性・独創性等） | <p>①小児がん：本学医学部附属病院は東京都小児がん診療病院に指定されており、これまでも白血病診療を中心に小児がん診療を継続してきた。昨年には長らく空席だった小児外科教員が着任し、今後は小児固形がんについても診療体制を整備する予定である。また、本学の小児科には原発性免疫不全症例が多く、悪性腫瘍を合併する症例もあり、本学の特色の一つである。</p> <p>②希少がん：本学においては、腫瘍整形外科領域ではがん研有明病院を関連施設として擁しており、密な連携が可能である。脳神経外科、頭頸部外科、口腔外科、肝胆膵外科、皮膚科等の分野・診療科においては継続的に希少がん診療を行ってきた。中でも、頭頸部外科、口腔外科、放射線治療科、食道外科が連携してきた口腔がん/咽頭がん/食道がんについての連携は本学の大きな特色である。しかしながら、希少がん全体としての横断的な情報共有のシステムが脆弱であった。</p> <p>本プログラムでは、臨床腫瘍学分野教員がコーディネータとして、これらの臨床実践のフィールドを基盤に、コースワーク（他大学との交換講義、遠隔講義も含む）を継続・再構成することによって、On the Job Trainingも視野に入れた教育体制を整備する。</p> | | | | | | |
| 指導体制 | 小児がん・希少がんに関する分野・診療科横断的な連携体制を構築し、小児科・小児外科、希少がん診療に関わる分野・診療科の教員による複合的な指導体制を整備する。同時に、連携大学間で得意とする分野を中心に、交換講義、遠隔講義、施設見学実習等も有効に活用できる体制を整備する。 | | | | | | |
| 教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想 | <ul style="list-style-type: none"> ・小児悪性腫瘍に関わる医療者（小児科、小児外科等） ・希少がん診療に関わる医療者（各診療科医師、歯科医師、腫瘍内科医等） | | | | | | |
| 受入開始時期 | 平成30年4月 | | | | | | |
| 受入目標人数 | 対象者 | H29年度 | H30年度 | H31年度 | H32年度 | H33年度 | 計 |
| | 大学院生 | 0 | 2 | 2 | 2 | 2 | 8 |
| | 計 | 0 | 2 | 2 | 2 | 2 | 8 |